

(公財) 横浜観光コンベンション・ビューロー

平成 29 年度 第 2 回 MICE ワーキング

日 時: 平成 29 年 8 月 25 日(金) 14 時 30 分～16 時 30 分(予定)

会 場: 横浜能楽堂(横浜市西区紅葉ヶ丘 27-2)

1 横浜能楽堂見学

横浜能楽堂

経営グループ長

原田 由布子様

2 講演「ユニークベニューとしての施設活用」

横浜美術館 経営管理グループ 広報・渉外チーム 渉外担当リーダー

襟川 文恵 様

.....【配布資料】.....

別紙① 平成 29 年度 第 2 回 MICE ワーキング名簿

別紙② 講演資料(横浜美術館様)

【議事メモ】平成 29 年度 第1回 MICE ワーキング

日 時：平成 29 年 9 月 25 日(金) 14 時 30 分～16 時 30 分

会 場：横浜能楽堂(横浜市西区紅葉ヶ丘 27-2)

参加者：参加人数 14 名 参加団体 12 団体

横浜能楽堂様 3 名

横浜美術館様 2 名

YCVB 6 名

1 横浜能楽堂見学 (横浜能楽堂様よりご案内)

- ▣能楽堂の歴史 明治 8 年に旧加賀藩主邸に建てられ、その後大正 8 年に旧高松藩主邸へ移築。
- ▣復原の歴史 横浜能楽堂の本舞台は旧染井能舞台として長く親しまれてきた能舞台を復原したものの 6 割の部材はそのまま使われており、(表面を削り白い部分を新たに出しながら)檜の香りもそのまま漂う空間である。
- ▣鏡板 舞台正面の絵のある板を鏡板という。能舞台の鏡板には松だけが描かれているのが一般的だが、横浜能楽堂の舞台の鏡板には松に加え、梅が描かれており、非常に珍しいが、誰が描いたものなのかははっきりしていない。
- ▣舞台 正方形の舞台のサイズは約 6 メートル四方でこの規格は全国の能舞台全て共通である。舞台上で今は使わないけれど、伝統として残っているものとして屋根、階段、白州、貴人口の 4 点がある。

能は全般的に、武士、武人のための芸能で一般人のためのものではなかった。

その後、楽屋、大鼓の革を乾かす焙じ室、揚げ幕の裏をご案内いただき、実際に 2 名 1 組で揚げ幕を上げる体験をさせていただく。

白足袋持参者は、本舞台にも実際に上がらせていただき、荘厳な舞台上の空気を体感させていただいた。

- ▣座席 2 階席にご案内いただき、1 階からとはまた違う 2 階からの眺め、S、B、A 席それぞれの特徴や料金の違いをご説明いただいた。

- ▣展覧見学 特別展「芸の倂 山田流と宝生流の名人たち」開催が翌日から控えていたが、特別にワーキング参加者に先行して見せて下さった。箏曲の二大流派の山田流、宝生流の名人たちの写真や縁の品などの展示。(一般には 10 月 9 日まで)

2 講演「ユニークベニューとしての施設活用」

(横浜美術館様)

- ▣横浜美術館のご紹介 1989 年 11 月 3 日に開館(2019 年が 30 周年)

- ▣ロゴマークのご説明 みる、つくる、まなぶ、を 3 つの指針としている。

みる＝展覧会。企画展の他に、約 12000 点の所蔵作品によるコレクション展を年に 3 回開催している。

つくる＝大人のための「市民のアトリエ」と、子どものための「子どものアトリエ」を開設している。

まなぶ＝ 美術専門の図書室。書籍と映像の無料閲覧を提供している。

- ▣ご講演者様自己紹介(これまでの経歴と現職の関係性について)

- ▣ご講演者様前職務とユニークベニューとの関連

- ▣ユニークベニューとしての資料、実際の画像のシェア

「ユニーク」＝「唯一性」。ユニークベニューとして施設の唯一性を考える。

横浜美術館の唯一性： 重厚な概観をもつ大型美術館であること。開放的なロビースペース。

▫利用コンディションのご説明：美術館ならではの様々な注意事項があり、10件のお問い合わせがあっても1件決まるかどうか。

▫美術館のユニークベニューとしての課題：宴席の規模に見合う水場が無い。ケータリング用のバックヤードが無い。美術品の安全を確保しながら宴席を進行する難しさ。

※美術品を優先させるかお客様を優先させるか。学芸員の理解と協力が不可欠である。

※美術館運営と宴席運営に求められるサービスの違い。

※ホテルと美術館のサービスの違いを洗い出してみる。宴席を運営する上での弱点を認識し、改善策、回避策など次のアクションに繋げる。

▫ご講演者様が具体的にアクションされた一例として

※総合案内カウンターを円形の人工大理石製にし、ドリンクカウンターとして汎用できるようにした。

※チケットカウンター案内表示をマグネットにして、他の用途にも使えるように工夫。

※ケータリングバックヤードとして、オフィスエリアの廊下を活用。ただし、館内スタッフへの周知を徹底し、理解を得ることが重要。

▫まとめ ー大切なことー

※宴会場ではないので、施設の魅力とお客様のマッチングが大切。

※施設の個性を中のスタッフが見極めて、理想的なお客様を想定する。

※利用基準をしっかりと設定し、双方の狙いに乖離が生じないよう事務的な資料を作っておく。(厳しい条件を提示する際に、感情的判断と思われないようにすることが大切)

※宴席の運営に適した人材とネットワークを確保する。

※ホテルのバンケットマネージャー等のプロと懇意になり、日頃から相談できる関係を築く。

※施設の改修をする際には、ユニークベニューとして活用促進の視点を含めて検討する。

※既成概念にとらわれずに、施設の潜在的な可能性を見直してみる。

※自ら様々なパーティーに出席し、客としての場数を踏むことも重要。

▫質疑応答

質問 横浜美術館では年間どのくらいのユニークベニューの催し物がありますか？

回答 年によって違うが、今年は4件ほど。300～500名のご要望が多い。

質問 装飾の部分、パーティーとしての飲食の場合の指定業者はありますか？

回答 生花は、花粉や虫の下処理を厳しくリクエストする必要があるため、過去に利用実績のある生花業者を紹介することがある。

飲食についても、避けて欲しい食材等があるので、過去の利用実績があるケータリング業者を紹介することがある。基本的には利用者に任せるが、条件をクリアする委託先を見つけるのが大変な場合もあるので、一応ご紹介できるようにしてある。

3. 最後に(横浜観光コンベンション・ビューローより)

▫配布資料の最後の資料の説明

トリップアドバイザーからの情報 横浜の情報をご覧になっている旅行者の数が56%上昇した。

海外での横浜の認知度は低いといわれているが少しずつ上がってきている。

▫伊勢山皇大神宮創建150年記念事業

神楽殿の内覧会に伺ったことを情報共有。神楽殿を増築して施設が大きくなり150名くらいまでの収容人数

で挙式などを行うことが可能。雅楽の演奏もあり、雅楽は今後アトラクションとしても外にお披露目をしていきたいとのこと。

▫さいごに

横浜能楽堂様、横浜美術館様へのお礼

参加者の皆様へのメッセージ 本日の出席者の皆様は施設だけではなく、場所の提供だけではなく、横浜市全体として一丸となって、MICE の横浜の今後の展開と一緒に作り出していきたい。

配布資料

1. 平成 29 年度 第 2 回 MICE ワーキング式次第
2. 参加者名簿
3. 「ユニークベニューとしての施設活用」 横浜美術館様
4. トリップアドバイザー資料